

長島千裕

映画『アイ・アム・ボルト』が
ウサイン・ボルト選手のイメージ形成に与えた影響

要旨

本研究では、ドキュメンタリー映画が持つ特別な影響力と社会的役割について、映画『アイ・アム・ボルト』を例に挙げて明らかにした。映画『アイ・アム・ボルト』では、ボルトの偉大さを強調する描写が多く、ボルトの欠点については意図的に触れない構成となっていた。事実に基づくドキュメンタリーといえども「描写の選択」によって映画制作における制作者の意図や価値観が強く反映される。ドキュメンタリー映画は単なる事実の記録にとどまらず、制作者の視点や価値観が強く反映されるメディアであり、観客に新たな視点やメッセージを伝える「教育的な役割」があると仮説を立てた。そして映画『アイ・アム・ボルト』を例に挙げて、ドキュメンタリー映画の影響力と社会的役割について検討した。

検討のなかで『ウサイン・ボルト自伝』、『ボルトはなぜ速いのか』を用いてボルトの定義を定め、映画で描かれるボルトの人物像と比較をし、分析を行った。

研究の結果、映画『アイ・アム・ボルト』はボルトを「努力と栄光の象徴」として描き、女性問題や薬物使用など、ボルトの欠点については触れていないことが明らかとなった。この「描写選択」によって映画『アイ・アム・ボルト』は、観客にボルトを「世界的に尊敬される偉大なスポーツ選手」として印象づけることとなり、観客に努力をすることの重要性和勇気を与える大きな教育的価値を持つ映画となったと考えられ、ドキュメンタリー作品には制作者の意図や価値観が反映されているとの本研究の仮説は立証された。

ドキュメンタリー映画には制作者が表現に偏りがないよう公平性を保つことも重要である。映画『アイ・アム・ボルト』がボルトの欠点に触れるよう描写選択をしていたら観客はボルトについてさらに深く理解することが出来ただろう。

映画『アイ・アム・ボルト』はボルトの偉大さを表現しているが、ボルトの全てを描いているわけではない。本研究を通して、ドキュメンタリー映画は「事実の伝達」と「制作者の意図」が混ざり合った作品であり、観客はそのバランスを理解しながら視聴することが大切である。